

平成29年2月28日  
大隅河川国道事務所

**記者発表資料**  
～桜島における地形・侵食堆積量変化について～  
「平成29年土石流調査情報（桜島地域）第3報」

航空レーザ測量の結果より、桜島の昭和火口の形状は、平成27年11月から平成28年10月までの約1年間で東西方向へ6m縮小し、南北方向は変化がなく、火口底は東西軸上の最深火口底において44m下降、南北軸上の最深火口底において32m下降していることが分かりました。

また、同期間における昭和火口周辺の山腹斜面への火山噴出物堆積量は約54万 $m^3$ 、侵食量は約35.2万 $m^3$ と堆積が著しく進行しています。

大隅河川国道事務所では、桜島の噴火活動に関する降灰状況、土石流の発生状況について「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」第31条第2項に基づく情報提供を事務所ホームページにより行っています ([http://www.qsr.mlit.go.jp/osumi/contents/bosai/sakurajima/debris\\_report.html](http://www.qsr.mlit.go.jp/osumi/contents/bosai/sakurajima/debris_report.html))。

なお、これらの内容の一部については、平成29年2月14日に開催された第137回火山噴火予知連絡会でも報告しています。

■資料のWeb掲載について■

平成29年土石流調査情報（桜島地域）第3報は、以下に掲載しています。  
大隅河川国道事務所 HP (<http://www.qsr.mlit.go.jp/osumi/>) 新着情報

記者発表に関する問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 大隅河川国道事務所

鹿児島県肝属郡肝付町新富1013-1

電話 (0994) 65-2541

技術副所長（治水） 島元 尚徳（内線204）

調査第二課長 野田 信幸（内線361）